

岸和田消防の沿革概要

明治27年 2月27日 (1894)	消防組の組織 消防組の発布により、岸和田に消防組が結成された。(組頭 1 名、小頭 1 名、組員 20～30 名、腕用ポンプ 1 台)
大正11年11月 1 日 (1922)	市制の施行 市制の施行により岸和田市となり、消防組は、旧 4ヶ町村の組織を継承して 4 組とする。(組頭 4 名、小頭 4 名、消防手 60 名、ガソリンポンプ 4 台)
昭和 6 年 6 月 (1931)	常備消防制度を採用 従来の消防組を改組して岸和田消防組とし、常備消防組と予備消防組を編成する。常備消防組は、旧公会堂(元市民会館)横に屯所を設け、消防手 6 名、ポンプ自動車 1 台を配置した。
昭和14年 4 月 (1939)	岸和田市警防団を組織 警防団令により消防組を改組して岸和田市警防団を組織する。(1 本部、8 分団、団員数 707 名、手挽ポンプ 6 台、水管自動車 1 台) 常備消防組は、警防団の常備消防部となり部長以下 13 名で編成する。
昭和16年 8 月 (1941)	消火栓の設置 岸和田市の上水道が通水開始、水道管に消火栓が設置された。
昭和19年 8 月 (1944)	特別消防補助員を任命 警防団常備消防部の消防手を選抜して特別消防補助員を任命、大阪府から消防曹長 2 名を迎え、常備消防の強化を図る。
昭和20年 6 月 (1945)	岸和田特別消防出張所の開設 大阪府警察部消防課直属の岸和田特別消防出張所を開設、岸和田中隊が置かれた。(管轄区域は岸和田市・貝塚市、ポンプ自動車 4 台、職員 64 名)
昭和21年 4 月 (1946)	岸和田消防署の設置 特別消防出張所(岸和田中隊)は解除され岸和田消防署が設置された。 山直出張所の開設 新たに岸和田消防署山直出張所が開設され、1 本署 3 出張所(貝塚・南掃守・山直)となる。
昭和22年10月 (1947)	岸和田市消防団を組織 消防団令の制定により警防団を解除し消防団を組織する。
12月	消防組織法の公布 法律第 226 号が公布され、消防は警察機構から分離して市町村に移管され、市町村の管理責任となる。
昭和23年 3 月 7 日 (1948)	自治体消防の発足 岸和田市消防本部が誕生、消防組織法の施行によって、自治体消防として新発足した。 (1 本部、1 署、2 出張所、消防職員 34 名、ポンプ自動車 6 台) 初代消防長に篠原 勇氏就任。
8 月 1 日	消防法の公布施行 (法律第 186 号)
昭和24年 5 月20日 (1949)	消防庁舎が竣工 岸和田市消防本部、消防署の庁舎が岸城町 7-1 に新築された。
6 月 4 日	水防法の公布施行(法律第 193 号)

昭和25年 2 月 9 日 (1950)	消防記念日の制定 3 月 7 日を消防記念日とすることに決定。
昭和26年11月28日 (1951)	水槽付大型ポンプ自動車を購入 (積載水量 3, 000L) 本署に配置。
昭和27年 7 月 23 日 (1952)	第 2 代消防長に田中清市氏就任。
昭和28年 4 月 1 日 (1953)	春木出張所を開設 春木本町 1483 番地の 3 に春木出張所を開設、ポンプ自動車 1 台を配置し消防業務を開始する。
昭和29年 2 月 17 日 (1954)	阪南 3 市消防相互応援協定 岸和田市・貝塚市・泉佐野市の 3 市相互応援協定を締結する。
4 月 2 日	水槽付ポンプ自動車を購入 (積載水量 2, 000L) 本署に配置。
昭和30年 3 月 25 日 (1955)	岸和田市消防団を解散し、岸和田市水防団が結成される。
昭和31年 4 月 2 日 (1956)	東葛城特別消防出張所を開設 神於町 232 の 8 番地に東葛城特別消防出張所を開設、ポンプ自動車 1 台を配置し消防業務を開始する。
昭和32年 6 月 8 日 (1957)	自動車整備工場を開設 本署庁舎内に整備工場を設け、消防車両、公用車等の整備を開始した。
昭和33年12月18日 (1958)	普通ポンプ自動車の寄贈 日本損害保険協会から寄贈を受け本署に配置。
昭和35年 5 月 17 日 (1960)	消防本部の機構改革 課制を採用し、庶務・経理・予防・教養・機械・警備の 6 課とする。
12月20日	救急業務の開始 本署に救急車を配置し救急業務を開始した。
昭和36年 2 月 25 日 (1961)	水槽付ポンプ自動車を購入 (積載水量 2, 000L) 本署に配置。
3 月 25 日	第 3 代消防長に芝本磐夫氏就任。
10月31日	自動車整備工場の認証 自動車整備工場は大阪陸運局より自家用自動車分解整備事業の認証をうける。
昭和37年 3 月 13 日 (1962)	岸和田市火災予防条例（条例第 13 号）が制定される。
10月18日	救急車の寄贈 岸和田ライオンズクラブから寄贈をうける。
12月 5 日	春木出張所新築移転 春木若松町 22 番 27 号に庁舎新築、業務を開始する。
昭和38年10月19日 (1963)	普通ポンプ自動車の寄贈 岸和田市火災予防協会から寄贈を受け南掃守出張所に配置。

12月11日	南掃守出張所新築移転	上松町 1267 の 2 番地に庁舎新築、消防業務を開始する。
昭和39年 6 月30日 (1964)	消防本部新庁舎竣工	岸和田市消防本部、消防署の新庁舎が岸城町 7-1 に竣工、仮庁舎から移転、消防業務を開始する。
8 月 1 日	泉北 2 市 1 町と消防相互応援協定	岸和田市・泉大津市・和泉市・忠岡町の 3 市 1 町の相互応援協定を締結。
12月 1 日	第 4 代消防長に湯谷 稔氏就任。	
昭和40年 4 月 1 日 (1965)	消防本部の機構改革	総務課・予防課・機械課・警備課の 4 課となる。
11月 3 日	水槽付ポンプ自動車を購入	(積載水量 2,000L) 本署に配置。
昭和41年11月10日 (1966)	屈折はしご付ポンプ自動車 (スノーケル車) を購入	本署に配置。
昭和42年 2 月25日 (1967)	放水砲の寄贈	岸和田市火災予防協会から寄贈をうける。
9 月 1 日	消防救助隊を編成	人命救助を主目的とする救助隊を編成する。
11月15日	水槽付ポンプ自動車の寄贈	日本損害保険協会から寄贈をうけ本署に配置。 (積載水量 1,800L)
12月 1 日	消防副士長制度を採用する。	
昭和43年10月 5 日 (1968)	最新型救急車を購入	酸素呼吸器等救急器材を完備した救急車を購入、本署に配置。
昭和44年 6 月 1 日 (1969)	消防救助隊を特科隊と改称する。	
6 月15日	自治体消防発足 20 周年	岸和田市火災予防協会創立 20 周年記念式典を挙げる。
7 月17日	消防艇の応援協定	堺市高石市消防組合が配備した消防艇「茅海丸」の応援協定を締結。
9 月 5 日	海上保安署と業務協定	船舶火災について岸和田海上保安署と業務協定の締結。
10月25日	阪南 3 市 1 町の消防相互応援協定	岸和田市・貝塚市・泉佐野市・泉南町の消防相互応援協定を締結。
昭和45年 3 月10日 (1970)	救急医療無線局の運用	大阪府と救急医療無線局の整備運用に関する基本協定を締結、極超短波無線機の運用を開始する。
	山直出張所新築移転	岡山町 266 の 1 に庁舎新築、業務を開始する。
10月 1 日	ヘリコプター航空消防応援協定	大阪市と回転翼航空機 (ヘリコプター) の応

	援協定を締結。
昭和46年 8 月 1 日 (1971)	救急サイレン音切替 救急車のサイレン音をピーポー音に一斉切替。
昭和47年 4 月 1 日 (1972)	阪和林野火災消防相互応援協定 大阪府と和歌山県に境界を接する市町間の林野火災における相互応援協定を締結。
6 月 9 日	八木出張所の開設 中井町 96 の 4 番地に八木出張所を開設し消防力の充実を図る。
7 月 1 日	アクアラング隊を編成 特科隊に編入する。
12月 1 日	救急車の寄贈 (社)大阪府モーターボート協会から寄贈をうける。
12月15日	化学消防自動車を購入 化学火災に対処するため化学車を購入、本署に配置。 (積載水量 1,500L、化学薬剤 500L、粉末薬剤 100kg 等を装備する。)
昭和48年 4 月 2 日 (1973)	第 5 代消防長に信貴堅一氏就任。
5 月16日	自治体消防発足 25 周年 岸和田市火災予防協会創立 25 周年記念式典を挙げる。
7 月 1 日	火災予防条例改正 岸和田市火災予防条例が全部改正される。
10月15日	広報査察車の寄贈 岸和田ライオンズクラブから寄贈をうける。
昭和50年 5 月 1 日 (1975)	特科隊を「消防救助隊」と改称する。
7 月30日	救助用ゴムボート・船外機・救助機具の寄贈 岸和田市火災予防協会から寄贈をうける。
昭和51年 4 月15日 (1976)	救急車の寄贈 日本損害保険協会から寄贈をうける。
5 月18日	救急車の寄贈 住友生命保険相互会社から寄贈をうける。
5 月23日	総合防災訓練 第 1 回岸和田市総合防災訓練を競馬場跡地で実施された。
昭和52年 2 月17日 (1977)	水槽付ポンプ自動車を購入 (積載水量 1,500L) 本署に配置する。
昭和53年 6 月20日 (1978)	南ブロック応援協定 大阪府下南ブロック消防相互応援協定が締結される。これにより堺市以南にある各市町の応援協定が統一された。
10月 1 日	阪和林野火災消防相互応援協定 大阪府と和歌山県に境界を接する市町間の林野火災の応援協定を締結。(昭和 47 年締結の協定は廃止)
10月19日	自治体消防発足 30 周年 岸和田市火災予防協会創立 30 周年記念式典を挙げる。
12月25日	通信指令装置を導入 消防通信の能率的運営を期するため消防救急指令装置「B」を設置する。

昭和54年 3 月 7 日 (1979)	記念誌の発行 自治体消防発足 30 周年の記念誌として「岸和田消防のあゆみ」を発行する。
昭和55年 1 月21日 (1980)	新鋭救急車を購入 救急車を増強し、救急体制の充実を図る。
7 月12日	第 6 代消防長に松山辰見氏就任。
昭和56年 1 月23日 (1981)	パトロール車の寄贈 岸和田ライオンズクラブから寄贈をうける。
6 月 2 日	東葛城出張所の庁舎竣工 神於町の現在地に新庁舎が完成、仮庁舎より移転、消防業務を開始する。
7 月 1 日	圧縮空気充てん設備の設置 八木出張所に高圧ガス取締法に基づく圧縮空気充てん設備を設置する。
8 月 7 日	気象観測装置の設置 気象観測を開始する。
11月23日	救助工作車を購入 消防救助隊の専用車として救助工作車を購入配置し、救助活動の充実を図る。
昭和57年 2 月 1 日 (1982)	救急車の寄贈 (社)日本自動車工業会から寄贈をうける。
4 月 1 日	八木出張所に救急車を配置 八木特別出張所と改称し、救急車を常備配置して、救急体制の充実を図る。
5 月 1 日	宮前町に自主防災組織が結成される。
7 月10日	予防査察車を購入 従来の広報査察車の名称を変更し、予防行政の一層の充実を図る。
11月19日	現場指揮車の寄贈 岸和田ライオンズクラブから寄贈をうける。
11月24日	水槽付消防ポンプ自動車の寄贈 (社)日本損害保険協会から寄贈をうける。 (積載水量 1, 600L)
昭和58年 3 月30日 (1983)	救急車の寄贈 大阪府共済農業協同組合連合会から寄贈をうける。
8 月 4 日	第 7 代消防長に原 徳一氏就任。
9 月30日	八木特別出張所増築 救急車配置に伴い仮眠室、会議室を増築。
11月24日	調査車の寄贈 岸和田遊技業組合から寄贈をうける。
昭和59年 3 月31日 (1984)	記念誌発刊 自治体消防発足 35 周年を記念して「岸和田消防のあゆみ」を発刊する。
7 月17日	普通ポンプ自動車を購入 春木出張所に配置。
8 月 1 日	大阪府下南ブロック消防相互応援協定 熊取町が加入し加入市町は 6 市 3 町と 1 消防組合消防本部となる。

10月1日	火災予防条例改正 岸和田市火災予防条例が一部改正された。
12月22日	土生滝町に自主防災組織が結成される。
昭和60年4月1日 (1985)	第8代消防長に西村元治氏就任。
11月1日	普通ポンプ自動車を購入 八木特別出張所配置。
12月11日	救急車の寄贈 (社)大阪府モーターボート競走会から寄贈をうける。
昭和61年4月1日 (1986)	第9代消防長に清瀬喜代隆氏就任。
9月1日	第1回婦人消防クラブ結成式を挙げる。
10月1日	岸和田市火災予防条例を一部改正する。
10月27日	大沢町(大沢町上、大沢町下、牛滝町)に自主防災組織が結成される。
昭和62年1月11日 (1987)	下松町92番地住宅兼寄宿舍から出火 損害額 27,780 千円、焼失面積 1,058 m ² 、類焼 4 棟
5月11日	第1期岸和田市幼年消防クラブが結成される。 上松町小羊幼稚園 園児 120 名
12月19日	救急車の寄贈 (社)大阪府モーターボート競走会から寄贈をうける。
12月21日	春木若松町 20-3 片山メリヤス工場出火。 損害額 73,511 千円、1 棟 1,443 m ² 全焼
12月28日	消防ポンプ自動車を購入。南掃守出張所に配置。 岸和田市火災予防協会から特別装備の寄贈をうける。
昭和63年4月1日 (1988)	気象予警報受信用ファックスを通信指令室に設置。
9月19日	第2期岸和田市幼年消防クラブ、岸和田市婦人防火クラブが結成される。 天神山保育園児 25 名、山直南、旭校区 40 名
10月15日	塔原町・相川町地区に自主防災組織が結成される。
11月2日	西之内町に消防訓練場(2,280 m ²)が完成する。
12月10日	救急車の寄贈 (社)大阪府モーターボート競走会から寄贈をうける。
昭和64年1月1日 (1989)	岸和田市消防職員等表彰規則を制定。 岸和田市危険物規制規則を制定。
平成元年3月31日 (1989)	記念誌の発行 自治体消防発足 40 周年を記念して「岸和田消防のあゆみ」を発刊する。
4月1日	岸和田市職員定数条例を一部改正する。(121 人) 岸和田市消防本部の組織に関する規則を一部改正する。 機械課を廃止し施設管理係として総務課に統合する。 岸和田市消防署の組織に関する規程を一部改正する。 山直出張所を山直分署と改称し、救急車を常備配置して救急体制の充実を図る。

4月5日	八木特別出張所を八木出張所と改称する。 岸和田市消防職員服務規程を全部改正する。 岸和田市消防職員の服務の宣誓書の様式を定める規程を制定。
7月1日	沼町25-4 山忠紡績(株)出火 損害額 142,384 千円、1 棟全焼 2,382 m ²
9月10日	岸和田市救急業務実施に関する規程を制定。
12月8日	光明地区に自主防災組織が結成される。
平成2年1月8日 (1990)	救急車の寄贈 (社)大阪府モーターボート競走会から寄贈をうける。
3月16日	南上町1丁目 和泉荘出火 損害額 32,647 千円、焼損面積延べ 756 m ²
3月29日	指揮車の寄贈 千亀利ライオンズクラブから寄贈をうける。
3月30日	近畿自動車道松原・海南線消防相互応援協定を締結する。 協定市町 7市3町 阪和自動車道共用開始される。(岸和田和泉 IC~阪南 IC) 消防ポンプ自動車 (CD-1) を購入。山直分署に配置。 消防緊急情報システムを導入運用開始する。
4月1日	第10代消防長に森信雄氏が就任。
10月22日	救急車の寄贈 (社)大阪府モーターボート競走会から寄贈をうける。
10月29日	山直南校区に自主防災組織が結成される。
12月10日	第3期岸和田市幼年消防クラブが結成される。 星光保育園 園児 24 名
平成3年4月1日 (1991)	岸和田市職員定数条例を一部改正する。(130 人)
5月24日	春木出張所の庁舎竣工 春木若松町の現在地に新庁舎が完成。 消防、救急体制の充実を図る。
6月7日	広報車の寄贈 (財)日本防火協会から岸和田市婦人防火クラブに対して防火広報車の寄贈をうける。
6月10日	阪和林野火災消防相互応援協定の一部が改正される。
7月15日	西之内町に婦人防火クラブが結成される。
7月22日	岸和田市消防職員立入検査証等に関する規則を一部改正する。
9月24日	阿間河滝町に自主防災組織が結成される。
11月9日	はしご付消防自動車 (35M級) を購入。本署に配置。 岸和田市火災予防協会から特別機装の寄贈をうける。
12月6日	岸和田市消防長訓令の用語等の統一に関する規程を制定する。
平成4年3月24日 (1992)	岸和田市火災予防条例を一部改正する。
4月1日	岸和田市職員定数条例を一部改正する。(136 人)
4月27日	額原町 丸石毛布(株)出火 損害額 303,979 千円、焼失面積 1,141 m ²
7月1日	岸和田市火災予防条例施行規則を一部改正する。 岸和田市の交替制勤務に従事する消防職員の勤務時間等に関する規程を制定する。
9月1日	岸和田市消防警備規程を制定する。
9月28日	化学Ⅱ型消防ポンプ自動車を購入。八木出張所に配置。
10月17日	別所町に自主防災組織が結成される。
11月30日	消防ポンプ自動車 (CD-1) を購入。東葛城出張所に配置。

平成5年4月1日 (1993)	第11代消防長に久高幸一郎氏が就任。 岸和田市職員定数条例を一部改正する。(150人) 岸和田市消防賞じゅつ金条例を一部改正する。
5月27日	加守町4丁目 (株)山本友綿行出火 損害額 36,219 千円、658 m ² 全焼
8月5日	第22回消防救助技術近畿地区指導会において第1位(ほふく救出)となる。
8月20日	第22回全国消防救助技術大会に近畿地区代表として出場(ほふく救出)入賞する。
8月27日	自治体消防発足 45 周年・岸和田市火災予防協会創立 45 周年記念式典が挙行される。
9月25日	近畿自動車道松原・海南線消防相互応援協定が一部改正される。 協定書の名称を「近畿自動車道松原・すさみ線消防相互応援協定書」に改正される。
10月1日	岸和田市火災予防条例を一部改正する。
10月28日	藤井町に自主防災組織が結成される。
12月1日	岸和田市の交替制勤務に従事する消防職員の勤務時間等に関する規程を一部改正する。(週休2日制実施)
平成6年1月1日 (1994)	岸和田市救急業務実施に関する規程を一部改正する。
2月22日	中井町 西村織物出火 損害額 160,371 千円、焼損延面積 1,926 m ² 、類焼2棟
3月1日	警備関係要綱等の制定 岸和田市消防非常警備実施要綱、岸和田市消防救助隊運用要綱、岸和田市消防警備調査及び警備計画要綱、岸和田市消防警備活動実施要領を制定し円滑な警備業務及び警備活動の推進を図る。
4月1日	岸和田市火災予防条例施行規則並びに岸和田市危険物規則を一部改正する。 岸和田市消防職員被服等貸与規程を一部改正する。 岸和田市消防署の組織に関する規程を一部改正する。 救助救急係の事務分掌を現状に即した規定に整備を図る。
5月1日	岸和田市消防吏員服装規則を一部改正する。
6月21日	関西国際空港消防相互応援協定を締結。(施行平成6年6月27日) 協定市町……11市町及び関西国際空港(株)
7月1日	近畿自動車道松原すさみ線及び関西国際空港線消防相互応援協定を締結。 (平成6年7月1日施行) 協定市町……大阪府8市町及び和歌山県3市町 岸和田市応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱を制定する。
8月30日	阪神高速道路消防協議会発足 阪神高速道路沿線市町(大阪府12市町及び兵庫県6市)の協議会が発足される。
10月4日	西之内町に自主防災組織が結成される。
10月27日	パトロール車の寄贈 岸和田ライオンズクラブから寄贈をうける。
12月15日	岸和田遊技業組合から査察車の寄贈をうける。
12月24日	大町 旭荘出火 損害額 23,561 千円、焼損延面積 496 m ² 死者 1名
平成7年1月17日 (1995)	兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)発生、本市消防本部も救急車延9台、人員延28名、消防車延3台、人員延12名が応援出動をする。
2月13日	高度化救急業務実施に伴う心電図伝送装置等の協定を締結する。 (泉州救命救急センター・近畿大学医学部救命救急センター・市立岸和田市民病院)
2月17日	高規格救急自動車を購入。本署に配置。 救急救命士6名を確保して高度救急業務を開始する。

3月23日	沼町 住宅出火 死者1名、焼損延面積 103 m ²
3月29日	下池田町 大町工業出火 損害額 54,200 千円、焼損延面積 523 m ²
4月1日	第12代消防長に新屋朝夫氏が就任。
5月1日	岸和田市指定消防水利規程を全部改正する。
6月28日	磯上町 住宅出火 死者2名、負傷者1名、焼損延面積 211 m ²
7月27日	第24回消防救助技術近畿地区指導会に出場（ほふく救出・ロープ応用登はん・ロープ登はん）の部に入賞する。
10月6日	神於町・上白原町地区に自主防災組織が結成される。
10月12日	事務用機器の寄贈 岸和田遊技業組合から寄贈をうける。
10月20日	指揮車の寄贈 岸和田市火災予防協会から寄贈をうける。
10月25日	15m級はしご付消防ポンプ車を購入。八木出張所に配置。 消防ポンプ自動車（CD-1）を購入。春木出張所に配置。
11月4日	消防フェスティバルを挙げる。 広く市民とのふれあいを通して消防に対する理解を一層深めると共に、防火防災意識の高揚と火災をはじめとする災害防止の啓発を図る目的で実施。
11月10日	APEC大阪会議の開催に伴う特別警備実施。 大阪市消防学校において、府下各消防本部が参加して、結団式を挙行、期間中宿泊施設及び高速道路において、特別警備を実施する。
12月26日	高度化救急業務実施に伴う心電図伝送装置等の協定を締結。 （岸和田徳洲会病院）
平成8年1月30日 (1996)	岸和田市幼年消防クラブ9園 900 名が結成され、12 園 1,150 名となる。 （新規結成クラブ＝双葉児童園・八木保育園・五風会保育園・山直南保育園 この花保育園・光陽保育園・久米田保育園・やまだい保育園・光明保育園）
2月6日	岸和田市消防署の組織に関する規程を一部改正する。 山直分署用地の所有権移転に伴い、所在地が岸和田市岡山町 262-5 番地に変更
3月28日	畑町 野口繊維工業(株)出火 損害額 53,102 千円、焼損面積 988 m ²
3月29日	岸和田市消防本部及び消防署事務決裁規程を一部改正する。
4月1日	岸和田市職員定数条例を一部改正する。(155 人) 岸和田市消防署の組織に関する規程を一部改正する。 春木出張所を春木分署と改称する。
6月10日	岸和田市の交替制勤務に従事する消防職員の勤務時間等に関する規程を一部改正する。
7月25日	消防救助技術近畿地区指導会に出場（ほふく救出）の部に入賞する。
8月28日	尾生町 藤原興業(株)出火 損害額 88,651 千円、焼損面積 940 m ²
10月1日	泉州救命救急センターにおける研修に関する協定を締結。 協定市町……8市3町 泉州地域救急業務連絡協議会が発足する。 岸和田市消防警備規程を一部改正する。
10月4日	上野町西自主防災組織が結成される。
10月6日	南上町一丁目自主防災組織・春木旭町府営住宅自主防災組織が結成される。
10月8日	救助工作車を購入。本署に配置。
11月10日	第1回自主防災会消火栓操法競技大会を開催

11月24日	(内畑町・神楽目青少年広場 6組織参加) 第52回国民体育大会開催に伴う剣道競技リハーサル大会の特別警備を実施する。
平成9年1月1日 (1997)	岸和田市火災調査規程を制定する。 岸和田市消防職員任用規程を一部改正する。 題名を「岸和田市消防職員の採用及び昇任に関する規程」に改める。
1月28日	高規格救急自動車を購入。山直分署に配置。
2月23日	北阪町に自主防災組織が結成される。
4月1日	第13代消防長に永野健一氏が就任。 岸和田市職員定数条例を一部改正する。(157人)
4月27日	岸和田市自主防災会連絡協議会が発足。 組織相互間の連携と組織の活性化を図るため15組織が発足する。
7月8日	尾生町 (株)サンシャイン紡績出火 死者1名、損害額369,267千円、2棟延3,894㎡全焼
9月1日	大阪府下広域消防相互応援協定が一部改正される。 岸和田市火災予防条例を一部改正する。
10月28日	第52回国民体育大会開催に伴い、剣道競技大会会場の特別警備を実施する。
11月2日	第2回自主防災会消火栓操法競技大会を開催。 (西之内町・中央公園、13組織参加)
11月9日	上野町東に自主防災組織が結成される。
11月13日	水槽付消防ポンプ自動車(I-B型)を購入。山直分署に配置。
11月16日	葛城町に自主防災組織が結成される。
12月14日	東ヶ丘町に自主防災組織が結成される。
12月25日	「大阪府下自動車電話・携帯電話からの119番通報に関する申し合わせ」締結施行される。 大阪府下を10地域に分割し、地域ごとに代表する消防本部において、それぞれの地域内における携帯電話等から119番通報を受信し、代表消防本部の管轄区域外からの通報の場合は、管轄消防本部等へ転送するシステムを運用開始する。
平成10年1月1日 (1998)	岸和田市消防警備規程を一部改正する。
2月27日	近畿大学医学部救命救急センターにおける研修に関する協定書を締結。
3月31日	非常電源設備を各署所に設置する。
4月1日	岸和田市火災予防条例を一部改正する。 岸和田市火災予防条例施行規則を一部改正する。 岸和田市職員定数条例を一部改正する。(161名) 岸和田市消防本部の組織に関する規則を一部改正する。 岸和田市消防署の組織に関する規程を一部改正する。 岸和田市消防本部及び消防署事務決裁規程の一部改正する。 消防職員旅費支給条例(昭和23年条例第49号)を廃止する。 職員旅費条例に整理統合される。
6月24日	自治体消防発足50周年 岸和田市火災予防協会創立50周年記念式典を挙げる。 岸和田市火災予防協会から軽四輪自動車(3台)、積載・携帯無線機、事務用機器の寄贈を受ける。
7月30日	第27回消防救助技術近畿地区指導会において、第2位(ほふく救出)となる。
8月28日	第27回全国消防救助技術大会に近畿地区代表として出場(ほふく救出)入賞する。
9月27日	畑町に自主防災組織が結成される。
10月1日	岸和田市火災予防条例を一部改正する。
10月13日	神須屋町 元奥野紡績(株)倉庫出火 負傷者3名、損害額6,137千円、焼損面積815㎡

10月25日	第3回自主防災会消火栓操法競技大会を開催。 (三ヶ山町 蜻蛉池公園 6組織参加)
平成11年 1月27日 (1999)	指揮調査車の寄贈 岸和田千亀利ライオンズクラブから寄贈をうける。
3月3日	高規格救急自動車を購入。 春木分署に配置。
3月7日	北野町に自主防災組織が結成される。
3月22日	新港町 (株)ナカヤマ 岸和田工場出火 損害額 159,852 千円 焼損面積 1,877 m ²
4月1日	岸和田市消防本部の組織に関する規則を一部改正する。 岸和田市救急業務実施に関する規程を一部改正する。 岸和田市消防衛生管理規程を一部改正する。
5月1日	岸和田市火災調査規程を一部改正する。
7月26日	岸和田市火災予防条例施行規則を一部改正する。
10月24日	第4回自主防災会消火栓操法競技大会を開催 (西之内町 中央公園、17組織参加)
10月31日	第23回全国育樹祭開催に伴い、会場の特別警備を実施する。
12月1日	岸和田市消防安全運転管理規程を制定する。
12月5日	極楽寺町に自主防災組織が結成される。
12月9日	消防ポンプ自動車(CD-I型)2台を購入 八木出張所・南掃守出張所に配置
平成12年 2月6日 (2000)	加守町3丁目に自主防災組織が結成される。
2月20日	田治米町 かねだメリヤス出火 損害額 80,857 千円 焼損面積 367 m ²
4月1日	岸和田市消防本部の組織に関する規則を一部改正する。 岸和田市消防署の組織に関する規程を一部改正する。 岸和田市危険物規制規則を一部改正する。 岸和田市消防職員被服等貸与規程を全部改正する。 岸和田市火災予防条例を一部改正する。 岸和田市火災予防条例施行規則を一部改正する。
8月31日	岸和田市消防本部の組織に関する規則を一部改正する。 岸和田市消防本部及び消防署事務決裁規程を一部改正する。
11月12日	第5回自主防災会消火栓操法競技大会を開催 (西之内町 中央公園、18組織参加)
12月13日	岸和田市火災予防条例を一部改正する。
平成13年 1月19日 (2001)	大手町 トッコ技研出火 工場・倉庫・共同住宅等3棟全焼、1棟半焼 焼損延面積 426 m ²
3月1日	岸和田市消防安全運転管理規程を一部改正する。
4月1日	第14代消防長に永橋英志氏が就任 岸和田市手数料条例を一部改正する。 岸和田市消防長告示第1号(消防用設備等の検査をする必要があると認める防火対象物の指定)を一部改正する。 岸和田市消防長告示第2号(必要な知識及び技能を有する者の指定)を一部改正する。
7月22日	春木若松町に自主防災組織が結成される。
7月26日	第30回消防救助技術近畿地区指導会において、第3位(ほふく救出)となる。

8月8日	第30回全国消防救助技術大会に近畿地区代表として出場（ほふく救出）入賞する。
11月11日	第6回自主防災会消火栓操法大会を開催 （西之内町 中央公園、18組織参加）
11月22日	葛城町 住宅出火 死者 1名 焼損延面積 100㎡
平成14年2月6日 (2002)	荒木町 住宅出火 1棟全焼 死者1名
2月12日	岸和田市救急業務実施に関する規程を一部改正する。
3月27日	岸和田市救急業務実施に関する規程を一部改正する。
4月1日	特例市の指定を受ける。 岸和田市消防吏員服装規則を一部改正する。
5月24日	中井町二丁目 セキモト出火 工場1棟全焼、他4棟全焼 焼損面積 2,850㎡ 損害額 888,771千円
10月25日	岸和田市火災予防条例を一部改正する。
11月10日	第7回自主防災会消火栓操法大会を開催 （西之内町 中央公園 17組織参加）
12月10日	災害対策用高規格救急車を購入する。 本署に配置
平成15年1月26日 (2003)	下野町 住宅出火 死者 1名
2月1日	沼町 住宅兼店舗出火 死者 1名 店舗兼住宅等2棟全焼 焼損延面積 223㎡
3月13日	岸和田市火災予防違反処理規程を一部改正する。
4月1日	第15代消防長に井出 明氏が就任。 岸和田市消防本部等公印規程を一部改正する。 岸和田市消防署の組織に関する規程を一部改正する。 岸和田市消防本部及び消防署事務決裁規程を一部改正する。
4月6日	春木泉町 共同住宅出火 死者 1名 焼損延べ面積 45㎡
8月1日	岸和田市火災予防条例施行規則を一部改正する。
10月22日	第16回全国女性消防操法大会に岸和田市女性消防隊が出場する。
10月27日	西大路町 山口織布出火 焼損延べ面積 1,914㎡ 損害額 82,720千円
11月7日	木材町 森庵允晴商店出火 焼損延べ面積 3,863㎡ 損害額 348,829千円
11月9日	第8回自主防災会消火栓操法競技大会を開催 （稲葉町 近畿ポリテクカレッジ 14組織）
平成16年1月27日 (2004)	池尻町 住宅火災 1棟全焼 1棟部分焼 2棟ぼや
4月1日	第16代消防長に瀧藤 修一氏が就任 岸和田市危険物規制規則を一部改正する。
5月7日	西大路町（株）大路製材所出火 焼損延面積 1,059㎡ 損害額 39,824千円
6月18日	岸和田市火災予防条例を一部改正する。
7月29日	第33回消防救助技術近畿地区指導会において、第1位（ほふく救出）となる。
8月26日	第33回全国消防救助技術大会に近畿地区代表として出場（ほふく救出）入賞する。

10月1日	救急ワークステーションの試行運用を開始する。
10月21・22日	実施場所 市立岸和田市民病院、岸和田徳洲会病院 台風23号災害により兵庫県豊岡市へ緊急消防援助隊として出場 (春木消防隊)
10月31日	作才町に自主防災組織が結成される。
11月7日	第9回自主防災会消火栓操法大会を開催 (西之内町 中央公園 13組織)
12月7日	災害対応特殊消防ポンプ自動車を購入(山直分署に配置)
平成17年4月1日 (2005)	岸和田市消防団の設置に関する条例を制定 岸和田市消防団員の定数、任免、報酬、服務等に関する条例を制定 岸和田市消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例を制定 岸和田市消防職員賞じゅつ金条例を一部改正する 消防功労章条例を一部改正する
7月13日	磯上町店舗出火 焼損面積 400㎡
7月22日	野田町市立福祉総合センター旧体育館出火 焼損面積 660㎡
9月23日	岸和田市消防団結団式を挙行
10月1日	岸和田市火災予防条例を一部改正する
10月22日	流木町に自主防災組織が結成される
12月20日	高規格救急自動車を購入(山直分署に配置)
12月26日	水槽付消防ポンプ自動車(積載水量900L)を購入(東葛城出張所に配置)
平成18年1月20日 (2006)	大沢町 住宅出火 焼損面積 269㎡
3月23日	岸和田市火災予防条例を一部改正する
4月1日	岸和田市火災予防条例施行規則を一部改正する 岸和田市消防警備規程を一部改正する 岸和田市消防本部の組織に関する規則を一部改正する 岸和田市消防署の組織に関する規程を一部改正する 岸和田市消防署の組織に関する規程を一部改正する
8月29日	岸和田市消防本部及び消防署の設置等に関する条例を一部改正する
9月4日	岸和田市消防署の組織に関する規程を一部改正する
9月13日	岸和田市消防署八木出張所に救急隊1隊増隊
10月1日	松風町 住宅出火 焼損面積 177㎡
10月14日	第11回自主防災会消火栓操法競技大会を開催 (岸和田市総合体育館 11組織参加)
12月26日	高規格救急自動車を購入(八木出張所配備)
平成19年1月6日 (2007)	消防出初め式(千亀利公園周辺)
1月8日	磯上町 住宅出火 焼損面積 死者1名
1月22日	岸和田市火災予防条例施行規則の一部を改正
2月1日	消防新庁舎建設検討委員会を設置
4月1日	岸和田市の交替制勤務に従事する消防職員の勤務時間等に関する規程一部を改正
〃	岸和田市消防職員の採用及び昇任に関する規程の一部を改正
5月10日	岸野町 建物出火 焼損面積 424㎡
5月23日	岸和田市火災予防協会より車両(予防活動車)が寄贈される
7月28日	第36回消防救助技術近畿地区指導会において、第1位(引揚救助)となる。
8月1日	岸和田市消防職員の採用及び昇任に関する規程の一部を改正
8月22日	第36回全国消防救助技術大会に近畿地区代表として出場(引揚救助)入賞する
9月19日	臨海町 原料倉庫出火
11月1日	岸和田市消防本部電子署名実施規程を制定

11月5日	第12回自主防災会消火栓操法競技大会を開催 (岸和田市総合体育館 13 組織参加)
12月2日	土生町に自主防災組織が結成される。
平成20年 1月11日 (2008)	消防出初め式(千亀利公園周辺)
4月1日	岸和田市消防本部の組織に関する規則の一部を改正
5月1日	岸和田市消防職員委員会に関する規則の一部を改正
5月2日	大沢町 住宅火災 焼損面積 137 m ²
7月26日	第37回消防救助技術近畿地区指導会において、第2位(引揚救助)となる
8月20日	第1回大阪府泉州ブロック消防広域化検討会が開催される
8月29日	第37回全国消防救助技術大会に近畿地区代表として出場(引揚救助)入賞する
8月31日	岸之浦町において平成 20 年度緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練が実施される
9月1日	岸之浦町において平成 20 年度近畿府県合同防災訓練が実施される
10月1日	消防本部庁舎新築安全祈願祭が挙行される
10月26日	磯上町に自主防災組織が結成される
11月20日	水槽付消防ポンプ自動車(積載水量 900L)を購入(春木分署に配置)
11月23日	第13回自主防災会消火栓操法競技大会を開催 (岸和田市総合体育館 13 組織参加)
12月6日	真上町 工場火災 焼損面積 156 m ² 負傷者 1 名

平成 21 年中の主な出来事

1月7日 消防出初め式（千亀利公園周辺）

3月14日 臨海町 工場火災 焼損面積 844 m² 死者 1 名 負傷者 8 名

4月1日 第 17 代消防長に上田 三代松氏が就任

4月21日 南上町 共同住宅火災 焼損面積 234 m²

6月4日 岸之浦町において平成 21 年第 33 回岸和田市総合防災訓練が実施される

6月14日 磯上町 共同住宅火災 焼損面積 283 m²

10月25日 天神山校区に自主防災組織が結成される

11月7日 岸和田市消防本部新庁舎が完成し上松町に移転

岸和田市消防本部新庁舎完成に伴い南掃守出張所が移転

岸和田市消防本部及び消防署の設置等に関する条例の一部を改正

岸和田市消防本部及び消防署の設置等に関する条例の一部を改正する条例の一部の施行期日を定める規則を制定

岸和田市消防団の組織等に関する規則の一部を改正

岸和田市消防職員委員会に関する規則の一部を改正

11月15日 第 14 回自主防災会消火栓操法競技大会を開催
（岸和田市総合体育館 12 組織参加）

12月28日 南町 共同住宅火災 焼損面積 16 m² 死者 1 名

歴代消防長

代	在 任 期 間	氏 名
初 代	昭和23年3月7日～昭和27年6月27日	篠 原 勇
2 代	〃 27年7月23日～ 〃 36年2月21日	田 中 清 市
3 代	〃 36年3月25日～ 〃 39年10月3日	芝 本 磐 夫
4 代	〃 39年12月1日～ 〃 48年3月31日	湯 谷 稔
5 代	〃 48年4月2日～ 〃 55年7月11日	信 貴 堅 一
6 代	〃 55年7月12日～ 〃 58年8月3日	松 山 辰 見
7 代	〃 58年8月4日～ 〃 60年3月31日	原 徳 一
8 代	〃 60年4月1日～ 〃 61年3月31日	西 村 元 治
9 代	〃 61年4月1日～平成2年3月31日	清 瀬 喜代隆
10 代	平成2年4月1日～ 〃 5年3月31日	森 信 雄
11 代	〃 5年4月1日～ 〃 7年3月31日	久 高 幸一郎
12 代	〃 7年4月1日～ 〃 9年3月31日	新 屋 朝 夫
13 代	〃 9年4月1日～ 〃 13年3月31日	永 野 健 一
14 代	〃 13年4月1日～ 〃 15年3月31日	永 橋 英 志
15 代	〃 15年4月1日～ 〃 16年3月31日	井 出 明
16 代	〃 16年4月1日～ 〃 21年3月31日	瀧 藤 修 一
17 代	〃 21年4月1日～ 現在に至る	上 田 三代松

(平成22年4月1日現在)